

＜リスクアセスメント実施一覧表＞ がん診療総合検討委員会 2024. 10 月

		有害事象の程度			
		致命的	重大	中程度	軽度
有害事象に至る可能性	確実である	5	5	4	3
	可能性が高い	5	4	3	2
	可能性がある	4	3	2	1
	可能性はほとんどない	4	3	2	1

リスクの見積り □→ リスク低減措置案後の見積り ○

リスク	優先度	
4－5	高	直ちにリスク低減措置を講ずる必要がある 措置を講ずるまで使用しないことが望ましい
2－3	中	速やかにリスク低減措置を講ずる必要がある 措置を講ずるまで使用しないことが望ましい
1	低	必要に応じて作業低減措置を実施する

1	リスク名	上肢穿刺によるオキサリプラチンの血管外漏出が多数みられる	
2	インシデント報告の有無	有	
3	有害事象の発生のおそれ 「～ので」＋「～なる」	上肢穿刺によるオキサリプラチンは末梢神経障害（急性・慢性）が出現するため、血管外漏出が起きても症状を訴えず壊死性抗がん剤であるため皮下組織障害が悪化する。	
4	既存の防止対策	患者の主訴（疼痛、しびれ、違和感等）から判断し、血管外漏出の有無を確認する。	
5	リスクの見積もり	有害事象の程度	中程度
		有害事象の可能性	可能性がある
		リスク	3
6	リスク低減措置案	1. オキサリプラチンの輸液予定量を-100m l で設定し、終了アラーム時に血管外漏出がないか確認する。 2. 過去に血管外漏出が出現した、またはオキサリプラチン投与回数が 8 回以上の時、自然滴下型注入ポンプを使用する。	
7	措置案想定リスクの見積もり	有害事象の程度	重大
		有害事象の可能性	可能性がある
		リスク	3
8	対応措置	対策実施日	2022 年 10 月 1 日
		次年度検討事項	
9	備考：残留リスクについて		

＜リスクアセスメント実施一覧表＞ がん診療総合検討委員会 2024. 10 月

		有害事象の程度			
		致命的	重大	中程度	軽度
有害事象に至る可能性	確実である	5	5	4	3
	可能性が高い	5	4	3	2
	可能性がある	4	3	2	①
	可能性はほとんどない	4	3	2	1

リスクの見積り □→ リスク低減措置案後の見積り ○

リスク	優先度	
4－5	高	直ちにリスク低減措置を講ずる必要がある 措置を講ずるまで使用しないことが望ましい
2－3	中	速やかにリスク低減措置を講ずる必要がある 措置を講ずるまで使用しないことが望ましい
1	低	必要に応じて作業低減措置を実施する

1	リスク名	クリニカルパスの適応率の低下	
2	インシデント報告の有無	無	
3	有害事象の発生のおそれ 「～ので」＋「～なる」	定型的に行われる治療や検査がパス化されていない、ガイドラインの改正や診療実績に合わせた修正がされていない、パスが適用されないので、安全性の低下や効率性の低下につながる。	
4	既存の防止対策	職員の知識向上のための研修会を開催する。診療科で作成途中となっているパスの進捗管理、支援をクリニカルパス委員会が行う。パス適用率が低い診療科に対しパス作成の打診を行う。優先的に修正が必要なパスのリストを作成し修正を促す。 (パス適用率) 令和2年度：43.8%、令和3年度：43.9%、令和4年度：47.4%、令和5年度：適用率 48.0%。	
5	リスクの見積もり	有害事象の程度	中程度
		有害事象の可能性	可能性が高い
		リスク	3
6	リスク低減措置案	・新規クリニカルパスの作成の支援、患者用クリニカルパスの改善による患者説明の充実化。 ・優先的に修正が必要なパスリストの作成。 ・院内クリニカルパス活動認知のためのクリニカルパス大会開催。 ・アウトカム評価実施率を向上するためのツールの作成。 ・上記の取り組みを支援するためのデータ活用支援。 ・目標：クリニカルパス適用率 55%	
7	措置案想定リスクの見積もり	有害事象の程度	軽度
		有害事象の可能性	可能性がある
		リスク	1
8	対応措置	対策実施日	令和6年9月17日
		次年度検討事項	

9	備考：残留リスクについて	・ 部署によってクリニカルパスに対する理解度や知識に差があり、これがパス活用における積極性の差につながっていると考えられる。そのため、教育コンテンツの充実や個別でのパス活動の支援を行いパス作成・修正を推進する。
---	--------------	---